



週)報

2014～2015年度))) R I 会長)ゲイリー C . K . ホアン)
R I のテーマ) 『ロータリーに輝きを』)
地区のテーマ))) 「行動) ACTION」) ガバナー)坂本元彦)

国際ロータリー
第2570地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕狭山東武サロン〒350-1305) 狭山市入間川 3-6-14) TEL)04-2954-2511
〔事務所〕〒350-1305) 狭山市入間川 1 -24-48) TEL)04-2952-2277) FAX)04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長)稲見) 淳) 会長エレクト)奥富喜平))副会長)坂本松男) 幹事)江原伸夫)

〔第3グループ内の例会日〕 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(月)、所沢西(水)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第1008回(9月9日)例会の記録

参議院議員 中山恭子講演会 テーマ「国想い 夢紡ぎ」

点 鐘 稲見 淳会長
合 唱 国歌斉唱、奉仕の理想
第2副SAA 宮岡君、守屋君
卓話講師 参議院議員 中山恭子様
ビジター 大澤譲司様(狭山 RC 会長)
伊藤宣明様(新狭山 RC 会長)
田口勇男様(新狭山 RC 会長)

出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
39名	34名	97.05%	97.43%

会長の時間

稲見会長

「リニア新幹線建設へ」東京の品川と名古屋の間を40分で結ぶリニア中央新幹線が、建設にむけて動き始めています。今回は、このリニア新幹線についてお話しします。リニア新幹線の特徴といえますと、スピードですね。



営業運転で、時速500キロで走行します。これは世界最速です。品川と名古屋の間は、リニア新幹線ですと40分に。東海道新幹線で1時間半かかりますから、およそ50分短縮されます。



2013年9月、JR東海は、リニア中央新幹線の詳しいルートや駅の間所などの最終案を示しました。

途中に4つの駅を設置します。2014年度に着工し、2027年の開業を目指します。

建設費は5兆4000億円です。

ところで、リニア新幹線は、これまでの新幹線とどう違うのでしょうか。

いろいろありますが、例えば、駅です。

品川駅では、東海道新幹線のホームは、地上にあります。リニア新幹線のホームは、地下およそ

40メートルのところに
つくられます。

地下40メートルより深い所は、「大深度地下」と呼ばれています。大深度地下は土地の買収をしないで公共的な事業に利用できるという制度があります。都市部は用地買収が難しいですから、この制度を利用して建設されます。このため、駅も深くなるのです。地下40メートルの品川駅を出発した後は、現在の



新幹線のように地上の高架の上を走りません。この図の太くなっている部分がトンネル部分です。ほとんどがトンネルで、地下鉄みたいです。全長の86%がトンネルです。都市部では大深度地下を利用し、山岳の部分では、なるべく良い地盤を直線的な最短のルートにしよと山を貫くと、トンネルが多くなるのです。さらに地上部分も、多くは図に有るようなフードで覆われることになるとみられています。そうなる外景色は、あまり楽しめないのか。せっきくの地上部分なのに、なぜフードで覆ってしまうのか。理由として大きいのは、騒音対策です。リニア新幹線は、いまの新幹線と同じ環境基準を満たす必要があります。浮いた状態で走るの、例えば同じ時速250キロであれば、いまの新幹線より静かですが、時速500キロで走ると騒音は大きくなってしまいます。そこで近くに住宅があるケースなどでは、フードをつけて騒音を抑えるのです。他にも、風、雪の影響を抑えたり、軌道に動物が入ってくるのを防ぐといった効果も期待できるそうです。

車内はこちらの写真のようになっています。リニア新幹線では、空気抵抗を減らすため、車体の幅を狭くしています。いまの新幹線とリニア新幹線の広さを車体の断面で比較した図です。

車内はこちらの写真のようになっています。リニア新幹線では、空気抵抗を減らすため、車体の幅を狭くしています。いまの新幹線とリニア新幹線の広さを車体の断面で比較した図です。



いまの新幹線が通路は
さんで左右に計5席ある
のに対して、リニア新幹
線では計4席です。



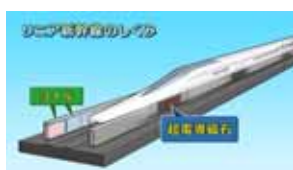
車内の広さは、在来線の特急くらいのイメージで
す。

開業後は、全席が指定、16編成で、およそ1000
00人を運びます。

1時間に上り下り、それぞれ5本程度、運行され
るといことです。

ところでリニアモーターカーは、どのようにして、
走るのか。

磁石の引きつけ合った
り、反発して離れようと
したりする力を利用し
ています。車両の前や、
車両と車両の連結部分
などの側面に超電導磁石という非常に強力な磁石
があります。



また、車両の両側には壁があって、この壁にコイ
ル、つまりグルグル巻きの電線が取り付けてあり
ます。

コイルに電気が流れると磁石になります。この磁
石と超電導磁石の間で働く力を使って進んだり、
車体が浮いたりするのです。

車体を浮かせるほどの強い磁石で、人の体に影響
はないのか。磁石の力の影響を抑える対策がとら
れています。

車体を上から見た図
で、赤い線は「磁気シ
ールド」です。磁気シ
ールドは、鉄やアルミ
の板でできています。



客室を囲むように設置され、乗客が受ける磁石の
影響を抑えるようにしています。磁石の人体
への影響についてはWHO・世界保健機関が推
奨しているガイドラインがあります。超電導磁
石の影響は、車内では、そのガイドラインの40
0分の1以下に抑えられています。リニア新幹
線がすれ違う時、反対側の車両の超電導磁石の影
響を受けますが、これもガイドライン以下、沿線住
民への影響もガイドライン以下に抑えられるとい
うことです。

パソコンや、腕時計を持って乗っても大丈夫なのか。
大丈夫です。心臓ペースメーカーが正常に機能す
るための基準も満たしているといことです。

車体の図を見ると、先頭に窓がありませんが、運
転士はどうやって運転しているのか。

実はリニア新幹線に運転士は乗っていません。運
行を管理する「指令所」から遠隔操作されます。
もちろん、乗務員は乗っています。

40分という、名古屋も首都圏の通勤圏かと思
うくらいですが、これだけ速いと運賃は高いのか。
JR東海では、東海道新幹線の「のぞみ」に比べ

て、700円増しくらいを想定しているといこと
です。

品川から新大阪に行く時は、名古屋で東海道新幹
線に乗り換えることになります。乗り換えに時間
がかかると、リニア新幹線の効果が薄れてしま
います。乗り換えには3分から9分くらいかかる
ので、列車の待ち時間も考えると、品川・新大
阪間の時間短縮は、ダイヤにもよりますが30~40
分くらいになるといことです。

リニア新幹線を新大阪まで伸ばした場合、品川・
新大阪間は1時間7分です。

東海道新幹線より1時間10分ほど短縮されま
す。名古屋と新大阪の間

の開業は、2045
年というのが現在の
計画です。

新大阪まで伸ばした
方がリニア新幹線の

特性は、より発揮されます。ただ、便利な一方
で、日本の人口が少なくなる中で、どこまで需
要があるのか、将来的な展望、予測を適切にし
ないと採算がとれなくなってしまいます。

新しい技術を集約して実現する高速鉄道だけ
に、安全性もより高いものが求められます。

トンネル部分が多いですから、火災などの緊急
時の対応が重要になります。

トンネルには4~5キロ間隔地上に出られる非
常口が設けられます。1000人もの乗客を煙の
充満しやすいトンネルでどうやって素早く避難
させるのか。避難や誘導の方法について検討し
、乗務員に対する訓練も必要となります。

また、時速500キロの超高速で走行するだけ
に、保守点検も重要になります。軌道に異常が
起きていることを見逃すと、大きな事故につ
ながりかねません。品川・名古屋間の全長は
286キロ。保守点検をどのように行くと効果
的なのか、そうした実務的な検証も求められ
ます。



幹事報告

江原幹事

1. 2016年度規定審議会立法案クラブ提出について
のお願い
2. 地区青少年奉仕部門セミナー参加願い
3. 元米山奨学生 Jタミラ君よりメール(写真)
が届いています
4. 青少年を育てる狭山市民会議第4回理事会の
開催について
5. 秋の全国交通安全運動に係わる広報啓発活動
の実施について(依頼)
6. 受贈会報 所沢西RC
7. 回覧物 AARニュース

『国想い 夢紡ぎ』

参議院議員 中山恭子様



皆様こんにちは。

今、若松さんから色々ご紹介頂きました。何十年という長い間のご厚誼を頂いておりまして、お世話になる一方なのですが、本当に楽しく、長いお付き合いを頂いており、心から感謝を申し上げます。また、ロータリークラブの皆様が日頃から町のために、皆のためにという思いで、ずっとご奉仕の仕事を続けていらっしゃることに、心から敬意を表しております。このロータリークラブが益々、それぞれの地域で、どんどん町の中に広がって行けば、日本の町、町のたたずまいというものは、きっと美しいものが出来あがり、町のたたずまいが美しくなれば、日本そのものも美しい国になるだろうと思います。ロータリークラブがそれぞれの地域で、益々広がって行って欲しいと、いつもそのように考えております。

今日は狭山中央ロータリークラブの皆様、このような講演の機会を与えて頂きまして、稲見会長、そして公共イメージ委員長の栗原様、本当にありがとうございます。心から感謝を申し上げます。また先日は若松さん、栗原さんらに参議院会館にお越し頂きまして、この狭山中央ロータリークラブのお話などを色々伺いまして、今日を本当に楽しみにしてまいりました。どの話をしようかと考えておりましたが、今若松さんがご紹介して下さいました、2008年の時に相当お話したような記憶がございますが、ウズベキスタンの話も含めて、そして今拉致問題が動き出しそうな状況にありますので、今の拉致問題で気を付けておいた方がよい、先ほど正論10月号の記事を読んで下さったということでございますが、今日の資料の中に、10月号で救う会の西岡会長と対談をしました記事のコピーを追加しておりますので、お読み頂ければ何が心配なのか分って頂けるかと思えます。拉致の今の問題、そして今日のテーマでもあります「国想い、夢紡ぎ」、この後の日本がどうあったらよいだろうか、出来ればそちらのテーマに時間を割いてお話をしていきたいと思っております。

やはり今、一番気になるような、日本として考えなければならない拉致問題の現状、今の問題点だけをお話しておきたいと思えます。少し拉致問

題のDVDをご覧ください。このDVDは、第一次安倍政権が出来ましたときに、総理補佐官として拉致問題を担当するようというご下命があり、補佐官に就任してすぐに国際社会でこの問題を正しく理解してもらわなければならないと思い、作ったものでございます。今から8年位前のものですが、それが今なお使えるという、何とも言えぬ情けない思いをしながらこのDVDを見ております。

小泉総理と金正日総書記の首脳会談が行われたのが2002年9月17日なのですが、その1ヵ月後、2002年10月15日に5人の拉致被害者が日本に戻るということで、迎えに行きました。その時、横田めぐみさんの娘さん、キム・ウンギョンさんが、飛行場に現れました。私自身、このウンギョンさんがひょっとしたら出てくるかもしれないと思っておりました。何故かというと、北朝鮮はこのウンギョンさんを使って、横田さんご夫妻にめぐみさんは亡くなったということをお納得させよう、そのためにこのウンギョンさんを使うであろうと考えられたのです。万が一にも出てきたらと思ひ、めぐみさんの母親である横田早紀江さんが書いた「めぐみ、お母さんがきっと助けてあげる」という題名の本を、1冊だけ持ってまいりました。

飛行場で北朝鮮側に、キム・ウンギョンさんが来ていると聞き、やっぱりと思いました。会われますかと聞かれた時、私は曾我ひとみさん、蓮池さんご夫妻、千村さんご夫妻と一緒に大広間におりました。拉致されてすぐに、めぐみさんと曾我ひとみさんが一緒にハングルを習ったという事を聞いておりましたので、ひとみさんにとってみれば親友めぐみさんの子供ということで、何とか会わせたいと思ひ、ウンギョンさんをこちらに連れてきて下さいとお願いしました。ダメだと言われると思ひましたが、ウンギョンさんはそのための一つのツール、工作活動の一つの道具と考えているのでしょうか、良いですよと言って連れてきてくれました。ひとみさんがウンギョンさんを抱えて、二人とも北側のハングルで長い間抱き合い、色々な話をしていたことが、今でもまぶたに残っています。

ウンギョンさんは日本語を読めませんが、自分とそっくりの母親、めぐみさんの写真が載っている本をじっと見つめておりました。その後広場の壁際の椅子に座ったのですが、座っても膝の上にその本を置き、母親の若い頃の写真を見ておりました。やはり拉致というものが非常にむごい事柄だという事を、この時も感じました。

拉致問題につきましては、概要等は小さいパンフレットが今日の資料の中にも入っております。なぜこのような事件になったかということも、前回もお話させて頂いたかと思ひますが、時系列だけお話をさせて頂きます。

1945年、大東亜戦争が終わりました。日本が敗戦という事で、非常に厳しい状況になりました。

敗戦から7年間、1952年まで、日本はGHQの占領下で厳しい経験を致しますが、1952年(昭和27年)に日本は独立を取り戻します。

朝鮮半島では1950年から1953年まで、朝鮮戦争が行われており、そのちょうど間の1952年に日本は独立致しました。1953年(昭和28年)に北朝鮮と連合軍との間に休戦協定が結ばれましたが、休戦協定とは、国際法の世界ではほとんど意味を持たない協定です。普通は休戦協定が結ばれば、その1週間~1ヵ月後には、平和条約や講和条約が結ばれるはずなのですが、これが未だに結ばれないまま休戦協定が続いております。

1953年に休戦協定が結ばれ10年以上たった頃、この頃はまだ北朝鮮、韓国、両国とも経済力において軍事力においても拮抗しておりました。韓国はその後、日本と韓国の間で正常化交渉が結ばれ、経済的に発展致しましたが、北朝鮮は、経済的な発展が止まったまま、軍事大国という形で今に至っている訳でございます。

1960年代半ばから、日本で若者が姿を消しています。当時は北海道、東北地方で、高校を卒業するかしないか位の若い男性たちが中心でした。非常に成績が良い、そしてその地域のグループで一目置かれているような、非常に信頼されている、頑健な体、さらには責任感が強い、それぞれの事案を聞いていますと、大体同じような若者が姿を消しました。これが1960年代の話です。そして今日の中で拉致と言われているのは1970年代からの話を中心でございます。政府が認定しているのも1977年のめぐみさんなどが初めてです。1970年から1983年、1984年位までの間の拉致事件が中心となっておりますが、北朝鮮から見れば、朝鮮戦争が終わって10年以上経った時、対南工作、南とは韓国のことですが、韓国への工作活動をするために、日本人を連れて行ったであろうと考えられております。これが1960年代の話です。そして1970年代位には、北朝鮮の工作員を、日本人と惑うような日本人化教育をして韓国に入れる、北朝鮮の国民、北朝鮮の人としてでは韓国は決して入国を認めませんので、日本人として、日本の偽のパスポートを持たせ、韓国に工作員を紛れ込ませる、その為の日本人化教育をする為、日本人、その頃は高校生ではなく20歳前後の人々、日本語、しかも典型的な日本の家庭、日本的な生活習慣を身につけた人々が拉致されたということが、拉致事件の主だったところでした。

今回、日朝合意がなされました。この合意文章につきましては、正論でだいが意見を述べておりますが、第一次安倍政権の時にもなんとか拉致問題を解決しよう、被害者を救出しようとする真剣に動きましたが、思うように進みませんでした。

金正日総書記が再調査をさせようと言ひ、今再調査という事が随分と言われております。2004年に、2002年に帰ってきた5人の子供たちを迎えに、小泉総理は第2次訪朝を致しました。その時、小

泉総理は5人生存で後は死亡、もしくは未入国と言ったがそんなはずはない、色々な情報を合わせてみると、生存している拉致被害者が北朝鮮に相当残されているはずだと、随分としつこく金正日氏におっしゃったそうで、金正日氏は根負けした形で、そんなに言うならばもう一度調査し直させましようと言ったそうで、その言葉に基づいて、第一次安倍内閣、その後の福田内閣、麻生内閣と一年毎に代わる内閣が続くわけですが、この時私は総理補佐官として安倍、福田、麻生総理にお仕えしておりましたが、この時、もう一度調査をさせると言った以上、再調査してもらいましょうと、北朝鮮との間で再調査の交渉を始めておりました。

今回、合意ができておりますが、非常に危なっかしいところがいくつかあります。一つは、今回の合意、再調査をしたうえで、北朝鮮は今回限りで日本人問題は終了だと言っています。日本側も、一括解決、一度に全員返して下さいと言っておりますが、これは同床異夢といって良いのでしょうか、日本側は全員を一括で返してもらいたいということに対し、北朝鮮側は、今回北朝鮮が出す名簿等、それですべて終わりにするという言い方をしているのだと思います。北朝鮮が言う今回で最終ということは、被害者側にとっては合意してはいけない、被害者側が納得できない時には更に交渉を続ける必要があるわけですので、日本側が合意をしてしまっているということは交渉としては有ってはならないということをお心配しております。そして北朝鮮側に対して、日本は国連がかけている制裁以上の制裁処置をかけておりましたが、今回この制裁の一部を解除致しました。しかし、これもこの制裁をかけたのはなんのためかといえば、北朝鮮に於いて、当時は金正日総書記、今では金正恩第一書記の命令が無ければ全く動かない、そうした国でありますので、今の金正恩第一書記が、もう拉致したものはいない、これは先代が行ったことであって、全て先代の時の部下が行ったものであるから、一気に返してしまおうという決断をして頂きたい、その決断を迫る為に、制裁処置をかけたはずでございます。しかし今回外務省は、何としても交渉の相手が席を立たないように、交渉継続したい、継続のためだけに制裁を解除してしまっている様子が見えるものですから、これも気をつけなければならないと、安倍総理に訴えております。

生存者の帰国というテーマについて、合意文章と、調査委員会を作りましたという資料もお配り致しましたので、いずれ見て頂ければわかることなのですが、今回の合意では、北朝鮮で被害者が見付かった時、北朝鮮側の処置として、調査の課程において日本人の生存者が発見される場合には、その状況を日本側に伝え、帰国させる方向で去就の問題に関して協議し、必要な措置を講じることとするというものがございます。ところがこれは誰も被害者は日本に帰さない、帰れないというこ

とと同じことを意味しております。それを外務省が理解できずに合意をしてしまったということも、大変心配なテーマです。

何を言いたいかといいますと、北朝鮮では拉致被害者は全て監視下に置かれています。朝何時に起きたか、お昼に何を食べたか、どんな言葉を発したか、全て盗聴器で盗聴されているそうです。例えば曾我さんがジェンキンスさんと話をしたことはすべて聞かれてしまっている、蓮池さん達も家の中で日本に行きたい、日本に帰りたいということを言えば、直ちに咎めがくる、全て知られているということが現状ですので、調査をして改めて発見したと言う必要は全くなく、全て把握されている状況なのです。しかし口実として再調査するという言葉があるものですから、調査をした結果、日本人を発見しましたと日本側に通報してきます。

2008年当時、私は拉致問題担当だったと思いますが、その時にも同じような文言で合意したいと外務省側が言ってきました。しかしそれではだめだと断りました。そして北朝鮮側に対して、発見した日本人がいたら、日本政府から直ちに人を派遣し、日本人かどうかという鑑定、そこで日本人だということが分り次第、ただちに帰国させるという条文であれば合意できると答えておりました。8月末、福田総理の時でしたが、この形であれば合意できると伝えたところ、北朝鮮側は黙ってしまい、返事が来ないままでありました。そしてちょうどその時、福田総理が辞任すると突然おっしゃったものですから、北朝鮮はそれを良い事に、総理が辞任するのであれば交渉は続けられないと、引っ込んでしまった経緯があります。

北朝鮮は被害者には必ず指導員と呼ばれる監視人がついています。全て把握されていて、日本人が外に向かっていう言葉も、全て教えられた、その教えられた通りの言葉以外は言うてはならないということになっています。違うことを言えばものすごいお仕置きがくるということを、皆経験でわかっているのです。例を申し上げれば、2004年に5人の家族が日本に戻ることにりましたが、小泉総理が第2回訪朝をし、千村さん、蓮池さんのお子さんたち5人を飛行機に乗せ戻ってきました。しかし曾我さんの家族、ジェンキンスさんと2人の御嬢さんは戻りませんでした。小泉総理はジェンキンスさんも連れて戻りたいと金総書記におっしゃったそうですが、金総書記は、ジェンキンスさんは日本には行きたくないと言っていると言いました。小泉総理は必死に説得をします。1時間程説得をしたと聞いています。日本の総理が本当に時間をかけてジェンキンスさんを説得しているという場面なのですが、ジェンキンスさんと2人の御嬢さんは、「今日何故ひとみを連れてこなかったのか。ここにひとみを連れてきて下さい。なぜお母さんが今日来ていないのか。」ということで、徹底して小泉総理を攻めたそうです。しかも

その言葉以外には他の言葉は何もなく、指導員からそう言いなさいと言われていたため、その通りその言葉だけを総理にぶつけるといった状態でした。結局連れて戻れませんでした。後日ジェンキンスさんはジャカルタでひとみさんに会い、日本に行くという決心をします。

私はジェンキンスさんに、あの当時日本で非常に信頼されていた小泉総理に、一緒に行こうと説得された時、何故一緒に行かなかったのかと、今ここで日本に行くことを決めるのであれば、あの時に決めればよかったのではと話したところ、きょとんとした顔で、どうしてそんな質問をするのかといった様子でした。ジェンキンスさんは、当たり前ではないか、あの時小泉総理の説得に従い自分たちも日本へ行きたい、もしそう答えていれば、小泉総理はその部屋から飛行場へ行く、自分と娘2人は一度自宅なり、どこかによって飛行場で合流することになる、別の車で動く、必ず殺されていたと言っていました。北朝鮮では被害者たちは監禁された状態に置かれていますから、日本に行きたいなどと言ったら、もしくは指導員に従わなければ、自分たちは殺される、そのように考えておられ、実際にそうなる可能性もあるわけで、当たり前だ、何故そんなこともわかっていないのだといった感じのお話でした。

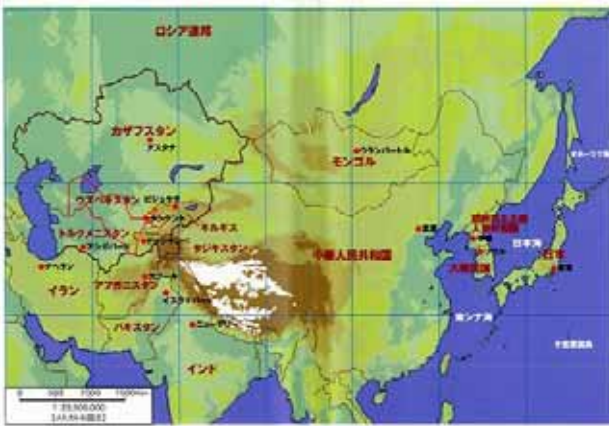
そうしたことを経験していますと、北朝鮮の中で、あちらの指導員が居るなかで、もしくはいなくても盗聴されているわけですので、日本に帰国します、日本に行きますとは決して言えず、北朝鮮で幸せでしたので、ここに残りますと言わされるわけです。するとこの合意は、誰も日本に戻ることは出来ない、北朝鮮は被害者を日本に帰国させるという意志はないと示しています。そうしたことから、場合によっては死亡したという状況が作り出されるかもしれないということを、北朝鮮の専門家たちは非常に恐れておりました、本物の遺骨が届くかもしれない、そんな可能性もあるということです。今私自身、政府の中にはおりませんが、5月28日この合意がなされた、総理からの発表は5月29日でしたが、6月1日には国民集会がたまたま開かれましたので、この事を申し上げ、総理に対しても疑念を中心にして、全ての関係者にこのような問題があるので気を付けて下さいという申し出を致しました。

総理は本当に真剣に取り戻そうとしておりますので、折角のその思いが、こういった実状を知らない人たち、外務省ならば外務省だけで交渉してしまうと、このようなことが起こってしまいますので、もう一度交渉をし直すようにということを申し上げました。当時菅官房長官からは1ヵ月以内で話がつかうようなお話を聞いておりましたが、未だに交渉が続いているという事は、私たちの忠告を受け入れた形で、今政府も真剣に取り組んでくれているのではないかと、このような危ない形の合意は進ませないように、もっと気を付けた、

本当に被害者を帰国させられるような、そうした交渉に入っていった欲しいと、様子を見ていますところでございます。

人質といえますのは、人質を取っている側が絶対的な有利に立っております。日本側からは、なんとしても無事に出てきてもらいたい、それだけがやっと言える所で、人質事件とはそうしたものだと考えております。中央アジアで4人の人質を救出しましたときにも、条件は一切出しませんでした。ただただ、日本というものはとてもいい国ですよという事をお話しながら、4人を解放して下さいとお願いし、なんとか無事に救出をできたということでございます。

写真を見ながらご説明されました。



中央アジア、カリモク大統領が一番右側で、あとはウズベキスタンの帽子をかぶっており、この帽子でウズベキスタンのどこの人か分るようになっております。ウズベキスタンのお話は2008年の時に、ここで日本人の若者たちが働いた話等をお話した経緯がございます。首都タシュケント、有名な町としては、サマルカンド、ヒヴァといった町がございます。

これはウズベキスタンの一番南で、アフガニスタンと国境を接しています。アムダリヤという川が国境になっておりますが、その川に沿った町、テルメズという所に、アフガニスタンから兵が押し寄せてくるという噂があり、テルメズの人々が全て逃げたしたということがございます。情報戦というのは本当に凄く、日本では情報戦はあまりしたことがありませんので、今情報戦は全て完敗しておりますが、事実は事実として知ってもらう努力をしなければいけないと考えております。

このテルメズへ中山は視察に参ります。この時カリモク大統領と会談をしておりまして、その時の言葉を一つ、印象深く覚えておりますが、ウズベキスタンでは戦後働いた、重労働に従事した日本の若者たちの生活ぶりや仕事ぶりが、非常に高く評価されております。あの人たちは嘘をつかない人たちだ、何かをあげると、自分でできること

でお返しをしてくるような律儀な人たちだ、物をつくるのが非常に上手で、良いものを沢山つくってくれた、運河もしっかりとした運河を掘ってくれ、さらにはナヴォイ劇場も地震にも耐えた、その後16年後大きな地震がタシュケントを襲った時に、この劇場だけは潰れずに避難場所になったとの事です。基礎はできていたのですがそれ以上のことができないまま止まっていた劇場の建設を日本の人たちがやってくれた、その仕事ぶりをタシュケントの人たちはずっと見ていて、語り伝えてくれています。そして今も、日本の当時の若者たちが、如何に規律正しく、陰日向なく働いて良いものを残してくれたということが伝わっているわけですが、中山とカリモク大統領との会談の中では、色々な話がでました。カリモク大統領からは今日本は敗戦病にかかっている、まだ敗戦病から抜け出ていない、なんとか早く敗戦病を直し、回復し、本来の日本を取り戻し、国際的に貢献して欲しいという言葉がありました。私自身もこの問題につきましても、ずっとどうしたら良いのだろうと考えながらきていたこともあって、カリモク大統領からこの言葉がでたということ、非常に印象深く残っています。

つい最近の新聞で、黒鉄ヒロシさんが、日本は経済だけは強くなったが、今なおまだ立ち直れていない、誇りよりも銭金という情けない状態が、そういった日本の体たらくを招いているが、その原因はもっぱら、先の大戦の健勝から逃げたことにある。大東亜戦争を語るに真珠湾攻撃から始めては、輪郭がぼやけるどころか骨格を失う。この日本は、懸命に対米戦争を回避する道を模索していた。しかしその当時、そのもっと前の日露戦争までさかのぼると考えていますが、日露戦争で日本がロシア艦隊を沈めた後、西洋諸国は日本というものをどこかで止めなければと考えていたと思います。明治維新以降ずっと、しっかりとした歴史を見直したうえで、大東亜戦争は何故戦わなければならなかったのか、どうしたらよかったのか、また戦って敗戦を迎えた後、今年で69年を終え、来年70年となりますが、日本が過ごしてきた69年というものはこれでよかったのかと、もう一度見直さなければいけないのではないかという思いでありますときに、このような新聞記事がでておりましたのでご紹介致します。

私が訪ねたのが8年目ですが、日本人墓地はこのような形で残っています。本当にどうしようか



と思いましたが。日本の厚生省や日本のここで亡くなった方々の、親を探そうと思いましたが、もうありませんでした。48年にはもう日本に皆戻っている訳ですので、一番若い人で20歳になったかならないかの人も墓地の名簿にあり

ました。通常は 25~26 歳と考えましても、それから 55 年たっているわけですので、本人たちが 80 代、若い人でも 70 代後半となるわけですので、親を探すことは出来ません。身内の方をという事で、たまたま結婚された方に 2 人息子さんがいらっしやいましたので、来て頂き、どうしたものだろうと色々な方と相談しましたら、周りのウズベクの人、「日本人を尊敬しています。本当によくやってくれました。ここは私たちが大事に守ります。」とおっしゃって下さり、そのお子さんたちも父親はここで眠らせて下さいというお話がありまして、墓地整備をすることに致しました。その時には若松さんにもおこし等をお願いしたかと思っておりますが、墓地を整備致しました。

このような形で整備をし、一番真ん中の方、2 年ほど前に亡くなりました。宮崎の方なのですが、自分の友達がここに眠っているという事で、お墓参りに行ってくれました。



ウズベキスタンという一つの国の中で 13 カ所に墓地があります。それは、至る所で日本人が重労働に従事していたということでございます。

そのような形で進めておりますが、この拉致事件やカリモク大統領の言葉などからみても、私自身は日本という国が、もう一度しっかり、本来の日本というものを皆で考えて、何が大事で、何をまた新しいものとして取り入れ、どういう日本という国をこれから作って行ったらよいのだろうかという事を、多くの方々の中で議論し、意見を取り返してもらいたい、そのような思いですとありました。

これは桜です。2002 年 3 月 5 日に日本から苗木が到着致しました。多くの方にご支援頂きましたが、苗を植樹し、それが今こんなに育っております。対外経済関係省の前の庭にあるソメイヨシノと枝垂れ桜ですが、この大臣がこの枝垂れ桜を指して、春になってこのソメイヨシノや枝垂れ桜が咲くと、花嫁さんがきてくれたような、そんな気分になるという話をしてくれました。このような形で日本とウズベキスタンの関係は続いております。



今、皆で何をしたら良いかという事で、私たちが一つ提案していることは、戦後来年で 70 年、そして 2020 年に日本でオリンピックが開かれます。これを機会にして、オリンピックが決まる前からずっと提案をしていることなのですが、日本という国の在り方、日本という国の特長とはなんだろ

うと私自身考えます時に、日本が持っている、長い間培ってきた文化であろうと考えます。日本は当然東アジアの国ですが、東アジアの国々とも違う文化が日本には残されています。

一つご紹介いたしますと、エドワード・モース、大森貝塚を発見したアメリカの理学者ですが、東京帝国大学の理学部の教授をして、ダーウィンの進化論をそこで教えてくれていた方です。その人が日本に滞在していた時の話が日記としてずっと残っています。非常に日本について驚いて、喜んで、嬉しがっている様子がずっと書き連ねられているのですが、その中の一つをご紹介しますと、感心したのは、行動を共にした人力車の車夫の礼儀正しく丁寧であることだ。いつも微笑を絶やさず、動物は労わる、アメリカの馬車屋なら喧嘩になるようなことでも、穏便に事を納める、そのような話がでできます。そして日本の住まいでは、鍵も門もかけずにいることができる。人々が正直である国にいることは、実に気持ちが良いとモースは述べています。外国人は日本人に、全てを教える気で、アメリカからやってきているわけですが、数か月もいれば残念ながら教えることは何もありません。自分の国で人道と名において、道徳的教訓の重荷になっている善や徳や品性を、日本人は生まれながらに持っているらしい、これが明治初め、1877 年に、日本を訪ね 2 年ほど過ごした、アメリカの理学者の話です。さらにその文書に、2 度目に来た時の話ですが 1882 年 8 月、新しい船に乗って瀬戸内に行ったとき、瀬戸内海に旅にでた。新しい船なのだけれど、船がひっくり返るかもしれない、そうしたら自分の持っている金時計、懐中時計がダメになってしまうと思い、広島だと思のですが、その宿の亭主に、私が帰るまで時計と金（ドル）を預かってくれるか聞いた所、彼は快く承知したということです。召使が一人、蓋のない浅いお盆をもって私の部屋に来て、そこに所有品をいれたならば、その女中は蓋のないお盆をその部屋の畳の上において行ってしまった。いずれこれはどこどこにしまいますと言って亭主がくるに違いないと思ったけれども、誰も来ない、諦めて亭主を呼び、こんなことでどうするのだ、大事な物なのだとおっしゃった所、主人はここに置いても絶対に安全です、こうしたものをいれる金庫も家にはありませんと言ったそうです。未だかつて、日本中のいかなる家でも、錠も鍵も門も見ることがないということは、自分では分かっていたが、この国民が如何に正直であるかを理解した私は、この実験を敢えてしようと思ひ、恐らく留守中に何度も客が入るであろうし、また家中の召使でも、投宿客でもが楽々と入りうるこの部屋に、蓋のない盆に銀貨と紙幣で 80 ドル、当時は高いお金ですが、それと金時計とを入れたものを残して出発をした。1 週間に渡る旅を終えて帰ると、時計は言うに及ばず、小銭の 1 セントに足るまで、私がそれを残して行ったときと全く同様に、蓋の無い盆

の上ののっていたということを、非常に驚いたというような文章が書かれております。アメリカではこれは「盗むな」等、旅館の戸口に警告が貼ってあったり、色々なものがホテル等ではネジで止められている、そういう様子を見たならば日本の人は、面白がるだろうといったような文章が残されています。

日本の文化というものが、外から徹底した攻撃を受けていないということもありますが、ある意味ではこの日本人がずっと育んできた和の文化、聖徳太子が和という言葉を使う、その前の何千年もの間、縄文、弥生と繋がる中で、和、相手のことを思いやる人権などという単語を使う必要はまったくなく、相手を思いやるという事は、その人の存在を尊重していることですので、日本では人権という新しい単語をもつ何千年も前から、それぞれの人を尊重しながら生活する、それが日本の文化である、そのことをもう一度私たちはしっかりと見直し、自信を持ち、この文化が廃れてしまったら日本という存在すらなくなるのだ、そんな思いが致します。

こちらはヨーロッパと日本の絵の比較です。有名なレオナルド・ダ・ヴィンチと歌麿の西国の芸者ですが、両方とも美しい美女の絵です。しかし書き方などは随分と違います。



西洋の絵画、油絵というものは、全てに描かれております。塗っていないところは決してないのです。そして細かいところまで遠近法で描かれております。肌の美しさ、柔らかさ、洋服のひだなどの柔らかさは、全て色の濃淡で描かれております。ところが西国の芸者は、外にいるのか内にいるのかすらわからない、この美しい女性を描きたい、この表情を描きたい、手紙になんて書いてあるのだろう、そしてそれを描きたいと思ったそのことだけが描かれており、周りの事は全くない、そういった違いがあります。これは版画ですので色の濃淡はありませんが、それでも肌の柔らかさ、指の柔らかさ、着物の柔らかさ、一本の線なのです。こういった西洋と日本の違いが、文化の違いがあります。しかし決して文化の質の優劣はないということは、はっきり申し上げられると考えております。

高階先生に、私が開いてきました研究会の第一回目の講演の時、西洋文明と日本の文化をどう称えてきこうかというテーマでお話を頂きました。20世紀は西洋文明が世界を支配してきました。当時は全てが西洋的な生活、西洋的な物の考え方、民主主義や人権や多数決、そういったことで物事が動いていかなければ平和ももたらさないし、皆も幸せにならない、西洋文明を同じ生活を皆さん

もしましようという、これが幸せになる方法だという事が20世紀、西洋文明の強さであったと思います。西洋文明にも素晴らしいことが沢山ありますので、日本は明治維新から今まで、西洋の文明が持っている色々なことを取り入れて参りました。日本は非常に好奇心の強い人々が住んでいる国々だと考えておりますが、もうそろそろ全て取り込み終わっているのではないという気も致します。戦後70年が経つ来年、この70年を中心とした何年かの間に、私たちは次の30年、50年、100年、日本の次の在り方、どのような日本を創っていったらよいのか、どういう日本であるべきかを、非常に重要なこの数年間に、私たちは生きていますと考えています。この数年間で次の数十年の礎を創っておかなければいけないだろうという思いで、今活動を続けているところです。その一つのアイデアとして、日本で世界の文化が交流する、そうした場を日本各地で持っては如何でしょうかという提案をしております。

もちろん大きな芸術祭、世界でもこうしたものが開かれておりますが、それを日本としてはもっと本格的に考え、日本が持っている文化であれば、西洋文明以外に対しても、高いきちんとした評価をすることができます。日本的なあらゆるものを受け入れて、それぞれの価値を認めることができる、そうした日本の人々が住んでおりますので、世界の文化が交流する場を日本の各地に作っていきましょうという提案をしております。日本だからこそ、これは出来ることであろうと思います。例えばオーケストラの大会を開く、大きな芸術祭でも、民謡大会でも、料理のコンテストでも良いのです。あらゆる文化の分野であれば、あらゆる事が出来るかと思っております。場合によっては少数民族の文化も、日本でしたらきちんとして評価をし、受け入れることが出来るだろうと思っておりますし、今これを文化のプラットフォーム、これは英語の台という意味ではなく、日本語化した駅のプラットフォーム、人々が荷物を抱えて駅に降りたち、迎えの人と出会い、荷物を置いてまた新しい荷物を積んで出ていく、そうした色々な人が自由に出入りできる、そうした文化交流の場を日本が作っていきましょうという提案をしております。

日本の文化の底力というものを、もう一度皆でしっかりと見直し、日本が持っているこの文化を絶やさないように、そして新しい物を取り入れながら、世界のために、国際社会のために貢献できる考えだと思っております、国会の中には議連を作り、平沼先生に会長になって頂いて、下村文科大臣とも連携をしながら、来年度予算の中になんとか調査費を組んでもらいたいと動いております。しかしこれは政府がやれと言って出来るものではございませんし、それぞれの地域の人が「よし、やろう」と心を決めて動きださなければ成り立たない、民間が中心となって動く行事であると考え

ております。ぜひ頭の隅に置いて頂き、狭山だったらこうしたことができる、お茶の会でも構いません。公共技術の協議会でも、医療の問題でも、あらゆることがテーマとなると考えますので、ぜひ今後の日本を考える時、文化という切り口で日本を見て頂けたらと思っています。

今後も皆様とずっと交流を続けさせて頂いて、ぜひ狭山の地に、素晴らしい市に、素晴らしい町、社会がもっと広がりますこと、そして狭山中央ロータリークラブのご盛会、皆様のご健勝、ご活躍、ご成功をお祈りして今日の講演を閉じたいと思います。ありがとうございました。



大澤讓司様（狭山 RC 会長）
中央 RC 皆様すてきな機会をありがとうございます。

伊藤宣明様（新狭山 RC 会長）
本日はお世話になります、講演会楽しみにしています。

田口勇男様(新狭山 RC 幹事)
本日はお世話になります。

高平睦生様 中山恭子先生講演会記念

稲見君 中山恭子先生、狭山中央 RC によろこそおいで頂きました、今日の講演よろしくお願ひします。狭山 RC 会長、新狭山 RC 伊藤会長、田口幹事いつもお世話になります。高平ご夫妻よろこそ、出席ありがとうございます。

江原君 中山恭子先生お忙しい中よろこそお出で下さいました、本日の講演何卒宜しくお願ひ申し上げます。狭山 RC 大澤会長、新狭山伊藤会長・田口幹事よろこそお出で下さいました。

寶積君 中山先生、お忙しい中卓話ありがとうございます。

片山君 中山先生、お忙しい所よろこそおいで頂きました。講演楽しみにしていました。

栗原（茂）君 中山先生、本日の講演大変興味深くお聞きしました。お忙しい中ありがとうございます。

沼崎君 中山先生、よろこそいらっしゃいました。
奥富君 参議院中山先生、今日の講演会よろしくお願ひ致します。

小澤君 中山先生よろこそいらっしゃいました。「正論」で先生と西岡教授の対談記事を拝読いたしました。北朝鮮との政府間協議合意文書に「帰国させる方向で去就の問題に関し協議し必要な対処をする」など問題がある点に関し懸念を示されており、的確なご指摘と敬意を表しております。先生の益々のご活躍を祈ってやみません。

坂本君 中山先生の講和をご拝聴出来ます事を光栄に思います。狭山 RC 会長、新狭山 RC 会長・幹事様よろこそお越し下さいました。多数のご家族のご参加ありがとうございます。

若松君 中山恭子先生、今日はよろしくお願ひ致します。楽しみにしております。

狭山中央 RC 美女軍団
中山先生、今日はよろこそお出で頂きました。楽しみにしております。
美女軍団への入団、是非よろしくお願ひ致します。

2014～2015年度 ニコニコ累計額	1,133,000 円
------------------------	-------------